

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000097		
法人名	有限会社 たすけあい		
事業所名	グループホーム たすけあい		
所在地	千葉県香取市岩部1056-1		
自己評価作成日	令和5年1月12日	評価結果市町村受理日	令和5年3月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	令和5年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度同様に、コロナの関係で施設運営に大きな影響を受けている。地域との交流や外出支援、家族との面会自粛等で施設が孤立傾向がある。施設内部での、コロナ感染対策をしながらの支援となっている。そうした中でも、利用者様の安全とストレス解消、気分転換が図れるように、職員あるいは利用者をお互いに交えて実践できていると思う。家族との交流も面会自粛により、少なくなり、タブレットを活用しているが、御家族様のインターネット使用状況が困難な方への対応が出来ず、今後、御家族との関わりや利用者様状況の閲覧ができる様にタブレットを活用するよう検討し実践したい。また、訪問看護事業者が、同じ敷地内に開設したため、訪問看護との連携も図り、より良いサービスが提供できるようにしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍で、施設運営にも影響を受け、利用者家族の面談や利用者の方の大勢での外出支援等が長く制限され、同一敷地内に出来た訪問看護事業所との連携も図り、スタッフ一同で感染症対策を取りながら、支援を行っている。新しくタブレットの活用やご家族様のインターネット使用状況が困難な方への対応までは出来ていないが、ご家族との関わりや利用者様の状況を閲覧できるタブレットの活用検討を進め、サービスの質の向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングの見える所に掲示し、カンファレンスで職員全員で復唱し意識付け出来るようにしている。また理念に基づく介護が出来るよう話し合っている。	施設の理念はリビングに掲示され、新人職員もおり、カンファレンス時全職員で唱和し、意識づけ、理念に基づく支援ができる様話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事は、コロナ禍が続き、中止のままであった。アコーディオン演奏会を中庭で行ったりクリスマス会では、を避け感染対策をしながら地域の方と交流できた。	長引くコロナ禍で中止の行事も少しずつ感染対策を行いながら、中庭でのアコーディオン演奏や食事会地域の方と交流等が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月20日をごみゼロ運動とし、施設周辺のゴミ拾いをしながら、地域の一員として活動出来る様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和3年は運営推進会議を5回予定していた。コロナにより書面開催となった事もあったが電話やメールで地域や市役所の方から意見を頂きサービス向上に務めた。	運営推進会議もコロナにより書面開催で実施になったり中、電話やメールで等の活用して関わりを持てるよう工夫をして良いサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍の為地域密着会議は中止または書面でのやり取りになったが、普段から電話やファックスを通して協力関係を築いている。	長引くコロナ下で、地域密着会議等は、中止や書面でのやり取りとなっている中でも、電話やファックス等活用したりして協力関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を定期的に行い、委員会メンバーは身体拘束排除宣言を復唱し、意識付けができ、各部署に委員会の内容を周知している。	身体拘束廃止委員会は定期的開催され、委員会の内容も各部署に内容を周知し、事業所全体で身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会と一緒に虐待防止委員会を立ち上げ、各部署で状況報告、問題点をあげ話し合い予防、防止策を検討している。また、各部署へ委員会報告をし、周知している。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修や外部研修にて対応できるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の家族の疑問等を理解し、説明を行い納得してもらえるよう取り組んでいる。必要に応じて電話での対応をして説明不足が無いよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通し役所の参加、地域の方の参加を促し取り組んでいる。	利用者家族アンケートでコロナ禍で、外出できない中、近所に散歩したり中庭で日光浴等いろいろ工夫して対応して下さり助かっているという声もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンスを通し職員の意見を吸い上げるように取り組んでいる。随時、職員の意見を汲み取り対応している。	カンファレンスや会議等で理念の復唱を行い、職員の意見をすいあげ、運営に反映できる様取り組まれている。また、普段から意見等を言い易い環境作りに取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が主となり取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々それぞれに任せられ、自らのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍に置いて交流を図り向上させることは出来なかった。外部研修においても同業者と会う機会はあったが向上させるまでには至ってなく努力が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時職員は個別対応を心がけ、コミュニケーションを図る様に心掛けている。また、情報を職員間で共有し、不安なく施設環境に慣れるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時の家族からの話を聞き取りながら、来訪時や電話にて利用者の状況を伝えながら関わりを持つよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時に良く聞き取りながら情報収集に取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の今までの生活歴や人生観などの情報収集をし、日々の生活の中に役割を持ってもらい共に行いながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ソーシャルディスタンスに留意し顔合わせや電話対応等で家族と話しながら支えていく環境作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会の自粛をしているが、電話対応やお便り等で関係性を継続している。	長引くコロナ禍で面会等の自粛を行っているが、希望があれば馴染みの場にお連れしたり、毎月の家族の報告の中に写真や普段の様子を入れたお便りを送っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割の共有、座席の配置、レクレーションでのコミュニケーションを図りながら、利用者各々で関わりを持ち支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じてご家族様と電話や会う機会を作る様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様やご本人から今までの生活歴、職種、趣味などコミュニケーションを図りながら把握し対応している。	利用者毎に担当者がおり、家族の意向も考慮し、普段からコミュニケーションを図り出来るだけ本人の意向を聞き取り、要望に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを図り、その中でこれまでの生活歴を聞き取りながら支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアや見守りの中で各個人の出来ることに着目し、役割をもち活動性のある生活が出来よう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの情報や日々の生活状況から職員間で話し合い、個人に合った介護計画を作成するようにしている。	本人がより良く暮らすための課題や日々の生活状況、ケアの有り方を、本人、家族、必要な関係者と話し合いを持ち、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット導入により、写真や動画入りで個別記録が出来、職員間での共有がしやすく介護計画の見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対応するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて活用出来ない状態ではあるが、地域資源の把握と共に、今後活用できるようにになったら行動できるよう検討していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診、定期受診を行っている。また必要に応じた往診・訪問歯科を依頼しながら支援している。薬の管理は必要に応じ薬局との連携にて支援している。	かかりつけ医の定期的往診や定期受診を行っている。薬の管理も薬局との連携支援している。訪問歯科の支援も受けられる体制も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の身体、精神状況を把握し、医療連携の看護師に報告、相談し早期に対応出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時なるべく早く退院できるよう連携室やご家族とのコミュニケーションを図りながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ早い段階でご家族と密な話し合いや相談を受け、医療・看護・介護の連携を図り、情報を共有して支援している。	重度化や終末期の対応マニュアルが整備され、事前に家族、本人の意見を聞き、見取りを行っている。職員間でも見取りについての話し合いを行い、チームでの支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応はしているが事故発生時の応急手当はしていなかったので訓練が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	社内研修や避難訓練を行い意識付けするように強めている。	避難訓練は年2回実施されている。災害時対応も実施されている。備蓄も訓練時に時々中庭で昼食の炊き出しを行い、入れ替えも行っている。	

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1月～3月をスピーチロック月間とし尊重した対応、言葉かけが出来るよう取り組んでいる。	コロナ禍で外部研修の参加はリモート等に代わっている。1月～3月をスピーチ月間とし尊重した対応、言葉かけが出来るよう取り組んでいる。	利用者のできる事は、職員が代りに行ってしまうのではなく、ゆっくりでも見守る事を大事にして欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を汲み取り、職員間で話し合い、個々の自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の話をよく聞きその方のペースに合わせてながら対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の話をよく聞き要望を聞き取り、必要に応じて出来るだけ希望に沿った対応が出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々それぞれの嗜好を把握するようにしている。出来ることは行ってもらいながら支援している。	長引くコロナ禍で皆での外食等が難しく、テイクアウトや食事を楽しむことが出来るよう行事食等も取り入れたり花を摘んできて飾ったり季節を感じられる様工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に記録をし確保できているか確認している。必要に応じて代替えも取り入れ対応できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛け、必要に応じた介助や訪問歯科を取り入れながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々それぞれの排泄パターンを把握し、少しでも自立出来るよう、利用者様の気持ちに寄り添いながら支援している。	自立でトイレに行ける方やまだリハパンを使用しやすい方もおり、リハパンの使用者も気持ちに寄り添い自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックをしながら、個々に合わせた運動や飲食物の対応をし予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の嗜好に合わせた入浴介助になる様配慮している。	入浴日は決められているが、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々それぞれの生活パターンがあり、ご自分のペースで過ごせるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師・薬剤師と連携を図り、必要に応じて相談しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	皆で出来ることや個々の能力に合わせ、役割や嗜好を考慮して、日々のコミュニケーションの中で探りながら対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に置いて外出する機会が極端に減った。ソーシャルディスタンスや予防に努め外出できるよう努めていきたい。	長引くコロナ禍で皆での外出や外食事する機会が減り、ソーシャルディスタンスや予防につとめ外出できるように工夫し努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは預かっていて、本人の欲しいものは一緒に買い物に行くように支援していたが、コロナ禍で外出自粛するようになってからは、本人希望の買い物対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ連絡できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく居心地の良い空間づくりにするよう努力している。	共有スペースが建物の真ん中にあり、キッチンからも見え香りや音を感じる場所で、天井の明かり窓、皆が集まり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置を考慮し、リビングでそれぞれの居場所を配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こだわりのある利用者様もいるため、本人が心地よく過ごせるように努め、要望がある時はすぐに対応できるよう努めている。	居室担当者は、利用者の居室は本人が居心地良く過ごせるよう努め、こだわりのある利用者さまの要望は直ぐに対応できるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や座席等は自ら使用できるよう、分かりやすくし、必要に応じ声掛けするように気を配っている。		